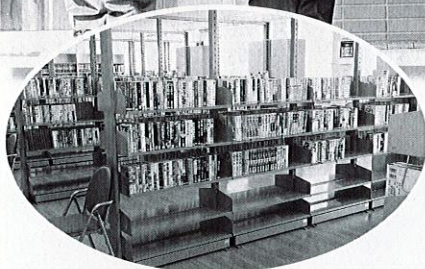


# 中央公民館だより



## 守門公民館 移転 ～守門庁舎にて開館式～

### 学習から創造へ

生涯学習課

課長 八海 昭夫



公民館では、様々な講座を開催し、市民のみなさんに学習機会の提供を行っています。それは何のためでしょうか。それは生きていく力を得るために、日々、学習することが大切だからです。

人が生きていくためには、新たな知識や技術の習得が必要です。そのために、人は様々な機会を通して学習し、知識を得ます。そして、思考し、判断し、行動します。その行動力は自己表現へとつながり、それは新たなものを創り上げる創造へと結びつきます。創造は、その行動を通して生きがいとなり、すなわち「生きる力」となるのです。

魚沼市に今、求められているもの、それは「市民の力」だと考えます。合併して十年が経ち、様々な課題解決が求められています。それらを解決するためにも、市民の学習力の高まりが重要です。

ソーシャル・キャピタルという言葉が耳にするようになりました。人間関係資本と訳され、「人間関係の豊かさこそ社会の資本である」という考えのことです。魚沼市が未来を切り拓くために必要なもの、それはまさに市民が持つ信頼関係や人間関係の豊かさであると言えます。その社会的ネットワークを育み、魚沼市を発展させるためにも、市民一人一人の学習の高まりが大切です。公民館は、それらの学習支援を今後積極的に行ってまいります。新たな魚沼市を創造し、発展させるために、共に学び合い、高め合いましょう。

# 守門公民館の紹介

中央公民館長 葦澤 文隆

守門公民館が守門庁舎へ移転してから五ヵ月ほど経ちました。今回は、開発センターの時と比較してどのような変化があったか、市民の皆さんから知ってほしいことなどを横山館長からお話を聞きました。

何といっても図書室が広く明るくなったことが一番です。図書室は二階にあります。庁舎として作られているため重量制限があり、書棚の高さにも制限があります。閲覧できる書物の冊数は制約されますが、その分見通しがよく開放感にあふれています。また、学習や読書をするスペースも十分に取ることができました。利用者は、大人はもちろん小中学生や高校生も立ち寄り、勉強していく姿が見られるようになりました。貸出冊数は五割ほど増しました。

二階フロアーには「並木治予視（はるよし）美術館」があります。並木治予視画伯が描いた作品が常に二十点ほど常設展示されており、作品を保守するため窓は一切なく、湿度、温度調節ができています。照明設備も本格的で作品に合わせて光量を加減できます。

先般、この美術展示場を借りて市民の方が作品展を行い、好評でした。美術展示場の利用について関心のある方は、守門公民館にご相談ください。守門公民館への連絡先は、五面の「職員体制・公民館連絡先」をご覧ください。

その他、施設使用面では、利便性が増したため、区長会など会議での使用が増えています。三階には色々な行事などに使用できる多目的ホールがあり、各種の行事等が行われています。最近では、一人で、連れだつて、幼児を連れてなど、高齢者の方々も気軽に訪れてくださるようになりました。世代をこえて、市民が集う場としての役割も果たすようになってきたと言えるでしょう。

また、健康体操教室、俳句教室や映画会などの講座も、これまでどおり開催しています。

職員は新たな環境で意欲的に取り組んでいる姿を見せてくれます。今後の守門公民館に期待しております。



## 「カラダのためには運動が大切」

守門公民館講座  
健康体操教室講師

梅田 愛子

守門公民館で健康体操教室を開催させて頂き、早三年。関東のスポーツクラブに勤めていた頃、いつか地元で健康体操教室を普及させたい！そんな事を漠然と思っていたことを思い出します。

このお仕事をさせて頂き、いろいろな方との携わりの中で切に感じることはカラダは資本であり、何をするにも健康であることが大事！ということ。教室の中では簡単なストレッチ、筋トレ、セルフで出来るマッサージ、リズムに合わせた体操など様々な内容を取り入れ、誰にでもできる運動を行っています。参加者からは、「肩こりが改善した」「家でもやるのが習慣になった」「カラダの調子がいい」「痩せた」などの効果のお声を頂いております。

運動を始めるのに遅いも早いもありません。気づいたときが始め時！

今の時代だからこそ、自分のカラダを見つめなおし、自分のカラダのためにできることをしています。ただけたら！と思っております。



平成二十六年年度

第六十二回

## 中越地区公民館研究大会報告

平成二十六年六月二十六日に刈羽村生涯学習センター「ラピカ」において、第六十二回中越地区公民館大会が『絆と活力あるコミュニティ形成の拠点としての公民館を目指して』を主題とし、『結ぶ』役割を生かした公民館運営』を副題に開催されました。その大会に魚沼市各地区公民館長六名が参加しましたので報告します。

はじめに、元新潟市教育政策監手島勇平氏が『地域の絆と公民館』私たちが求めるものは青い鳥』という演題で講演しました。手島氏は聖籠町で長年、公民館主事、公民館長として公民館活動を支えてきた経験をもとに話を進めました。はじめに、成人式を青年たちの手で作ったこと、聖籠町食生活改善推進協議会と郷土料理の本を作り、異世代にその料理をつなぐ講習をしたことなどの実績を語られました。また、高齢者の自分史作りなどの経験を通して、公民館に携わる者は常に市民の立場に立って物事を考え、市民とともに公民館活動を見直すことが大切だとわかったこと、そして、市民の学びが深まる職員を目指すことが大切、ということを強調されました。そこには手島氏の「住民が主人公」ということを貫いた姿があり、参加者の心に残る講演となりました。

事例発表は、刈羽中学校長諏訪部寛栄氏から『地域とともに歩む学校づくり』コミュニティ形成への参画』というテーマで発表がありました。刈羽中学校は平成二十六度から地域の人たちとともに学校づくりを進める「コミュニティ・スクール」をスタートさせ、学校運営協議会を設置しました。そこから保護者や地域の方々が学校運営に関与する機会が増え、子どもが抱える課題の解決や、環境づくりなどを地域や公民館と協力する質の高い教育の実現を図ることが望めると


の話がありました。そして、保護者・地域の方々の意見が学校に反映しやすくなり、学校は責任ある保護者・地域の参画を得て、学校支援ボランティアなどが広がり、地域の教育力の向上が期待できる、ということでした。諏訪部氏は、これからはいい学校を作ろうと地域のみならず一緒に汗をかくことで、いい地域が形成されることを強調されました。また、地域の絆作りや地域の再生の鍵は、公民館とともに学校にもある、とのことでした。

改めて、公民館は地域社会の諸課題を解決するための学びの場であり、活力ある地域社会を創造するためのコミュニティ形成の拠点であることを確認した大会でした。  
(報告者 葦澤 文隆)

**参加者の**  
**声 声 声**

**「楽しい絵手紙教室」  
に参加して**

富永 政子



絵を書くなんて小学生以来の事、初心者用絵手紙セットを購入しての参加でした。

全五回、各二時間の講座ですが、初日は道具に慣れる事で精いっぱいでした。講師の佐野伸一先生より「絵も文も型にとらわれずに思いつくまます自由に書く事です」と再三言われて、回を重ねる度に楽しさが増して来ました。初回からプロ級に描く人、亡きご主人の道具を持参して始めた人、優しい色使いで描く人、とても大胆なタッチで描く人、個性豊かな人達との出会いでした。身の回りの花・物にも興味が生まれ、どう描いて、どんな言葉を入れて誰に発送しようか…想像すると思わずニコツと笑顔になります。

四回目の講座では自発的に自己紹介も行なわれ、講座終了後サークル活動への提案も生徒より出されました。公民館活動を知りませんが「楽しい絵手紙教室」への参加を機に又参加したいと思えます。これからも楽しい企画をして頂きますようお願い致します。



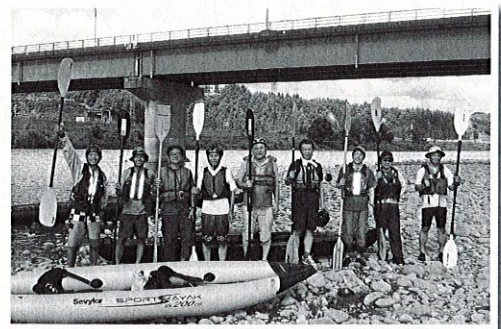
## 公民館とコミュニティ

前 中央公民館長 星野 修美

平成二十六年五月、魚沼市宇賀地地区に、市内で十二番目のコミュニティ協議会が誕生した。宇賀地小学校をそのエリアとするこの地域は、半世紀以上にわたって、堀之内公民館宇賀地分館と竜光分館の活動が展開され、優れた実績を残してきた。そして今、これまでの成果を踏まえてさらにこれを飛躍させるために、新たな仕組みづくりの必要性を感じたものと私は思っている。

協議会設立にあたって、心ある人々はこの地を襲った中越地震と水害という二つの災害の厳しい現実と向き合い、地域防災の在り方について本格的な検討をはじめた。そこには地域課題を自主的に取り組む学習の姿があり、課題解決のための方策を探る試みでもあった。それは四年前都合十九回の会合を重ねてきた。このことこそが公民館活動そのものなのである。さらに、協議会の目指す方向性は住民の連帯と融和を基調とした「地域づくり」であることを忘れていない。

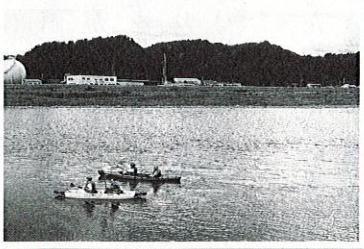
公民館活動はその立脚点を「地域」に置く。この点はコミュニティ協議会も同様である。魚沼



地域課題に迫る共同学習は十分ではなかった。

魚沼市のコミュニティ活動を振り返れば三十年前に遡る。小出北部地区において、住民の自主的な地域づくりの運動が重ねられ、これをベースとして小出北部公民館の活動が存在していた。六年前、本格的に展開されはじめた市内のコミュニティ協議会は、それぞれの地域の特徴と実態に即して課題を取り上げ、その課題解決のための運動を展開している。ここにおいて学習活動は不可欠な条件であり、そのための支援と援助を積極的に進める役割が地区公民館に改めて求められている。

おおむね小学校校区に存在するコミュニティ協議会と中学校校区に配置されて居る公民館がそれぞれの役割を発揮しつつ、共通のゴールである「地域づくり」に向かって相互に深い連携を保ちながら活動を進めることは喫緊の課題であると考えている。



市はこの自主団体の育成を目指して行政的にバックアップ体制をとっている。公民館は、いうまでもなく社会教育法で謳われているとおり、公的な教育機関である。館長と主事を配置し、住民の自主的な学習活動を奨励し、援助することを主たる任務としている。だが、この任務を十分果たしてきたかといえば、必ずしもそうではなかった。その事業は趣味・教養・生活技術などの個人学習の分野が大半を占めており、生活課題や

# 宮里静輝日本画展 無事終了

伊米ヶ崎公民館長 森山 喜久男

昨年準備を進めてきた地元（魚沼市虫野）出身の日本画家宮里静輝（本名保房）の作品展を、六月十三日から二十日まで盛大に開催することが出来ました。

それまでに、ミニ展覧会として、伊米ヶ崎公民館で二月二十三日から一週間開催をしましたが、地元と言う事もあり、予想以上に関心が高く、口コミで地区内外から大勢の見学者が訪れました。

今回は魚沼市制施行十周年と、魚沼市文化協会設立十五周年記念事業に取り上げていただき、伊米ヶ崎公民館も協力をさせて頂きました。

昨年からの作品の発掘にばかり、乏しい情報の中から所有者からの紹介や噂を頼りに、市内五十人の方から百八十点余りの作品を見せていただきました。

ただ、残念なことは、作品があったと言われ何ったところ、家を新築した際に処分したとか、あるいは燃やしてしまったといった話があり、次世代にこれを伝えていく大切さと難しさを痛感いたしました。

特に襖絵、屏風は、今の住宅にあつては邪魔になつても役に立たない、という事が多く、地域で守っていくシステムを考えないと作品がなくなるだけだ、と思いました。

たとえば、市の文化財として預かり、廃校した学校等で保管し、虫干しを兼ねて文化祭等で展示会を開くなど方法はあると思います。

今後、市民の皆様の知恵で解決できれば、と思いましたが、今回の展覧会は、会場のスペースの関係で、すべての作品の展示は難しく、文化協会の実行委員会において選出しました。

その中から作品所有者のご理解とご協力により、総計六十三点の掛軸、屏風、幟、額装を展示することが出来ました。

この場を借りて改めて所有者の皆様方に御礼を申し上げます。特に、日本美術展への出品作品が二点見つかり、今回初めての展示ができたことは、本当にありがたいことでした。

今回の展覧会で感じたことは、山水画から神仏画、また、お客様から依頼を受けて描いたと言われる人物画等々、宮里静輝の画家としての優れた技量と博識の高さであります。

それゆえに、千人を超える方々が見に来ていただけたものと思いません。

また、展覧会実施に当たり、最後までご協力を頂いた文化協会の役員の皆様およびスタッフの皆様には御礼を申し上げ報告と致します。



地区公民館の職員体制・連絡先

公民館名	館長	公民館主事	電話番号	FAX番号
堀之内公民館	葦澤 文隆	今野 美紀・坂牧 賢吾	794-6026	794-4210
小出公民館・小出北部公民館	古田島 修	山田 悦子	792-5336	792-5336
伊米ヶ崎公民館	森山喜久男	梅田 恵	792-0082	792-0082
湯之谷公民館	星 政幸	仲丸 律子	792-0530	792-0530
広神公民館	松田 光正	星野 京子	799-3227	799-2417
守門公民館	横山 治隆	平井 裕美	797-2261	798-3022
入広瀬公民館	浅井 健五	佐藤小百合	796-2322	796-2767

# 地区公民館の活動報告

## 小出公民館

### 「子育てパパママ応援します」

小出北部公民館長 古田島 修

「ほら、しつぽが出てきたよ。これは誰かな？」  
「ウさん」と元気な声。紙人形を使ったお話に真  
顔な子どもたちは、親子遊びでは、パパ、ママの  
ひざに乗ってまたとても楽しそうです。会場  
は隣の子育て支援センター「ぱびぶ」さんです。「ぱ  
びぶ」さん(共催)と、北部コミュニティ協議会の「親  
子のふれあいを育む部」の皆さん(後援)と、地域(公  
民館)で子育てを応援して行こうと始めて二年目  
になります。子どもたちは主に〇才〜四才です。

「お父さん、お母さんが子どもの目をしっかりと  
見て、抱いて言葉で伝えること。受けた愛情はそ  
の子に、そしてその子の子どもに必ず帰って来ま  
すよ」と、絵本の家「ゆきぼうし」の大塚千恵さんは、  
子育て奮闘中のパパ  
ママに話しかけてくれま  
す。紙芝居やわらべ歌  
もあります。やってい  
ることは決して新しい  
ものではなく、昔から  
の親子のふれあい(絆)  
です。  
帰り時の、手をつな  
ぐ親子の輪がもつと広  
がりますように。



## 広神公民館

### 「地域の中の公民館」

広神公民館長 松田 光正

「ここに昔は街道があり、地域を歩いてみると、  
忘れられている史跡が多くある。時の流れの中で、  
移動してきたもの、その経緯を教えてもらえるの  
はうれしい。その石仏や祠に託した思いを聞き、  
しばし、昔に思いを馳せてみる。その地域に伝え  
られてきたものを思い起こし、又、後世に伝えて  
いく。我々の大事な役目の一つである。」

今年には羽川谷を計画。(地域の宝さがし教室) 郷  
土料理を中心に「食」について考える料理教室。  
焼きものの魅力にはまり、更に奥へと踏み込んで  
いく陶芸。日本の伝統文化に親しむ抹茶教室。秋  
の文化祭への出品を目指す園芸教室。又、人を楽  
しませながら、コミュニケーションを学ぶマジッ  
ク教室。

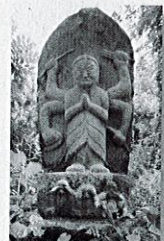
地域を忘れずに、楽しく学べる教室を目指して  
います。



池平宝さがし教室



料理教室



中子沢石仏

## だんだん どーも

自然教室でエコミュージ  
アム遊々の森を歩いた。ブ  
ナ林の中はとても涼しく  
気持ちいい。爽やかな木々  
の匂いや野鳥の声で久しぶ  
りに自然を満喫した。「シヨ  
ウキラン」という珍しい植  
物にも出会えた。「今度はぜひ春秋  
に来てみたい」という参加者の声が嬉  
しい。

ところで、ここ、新しくなった守  
門公民館にいても鳥や虫の声がよく  
聞こえてくる。仕事の合間、心がホッ  
とするひとときだ。オープンして数ヶ  
月、たくさんの方々に助けていただ  
き、広々とした素晴らしい環境の公民  
館になった。これからはハード面だけ  
でなく内容においてもより充実した誰  
もが満足できる公民館にしていかな  
ければ。そして、訪れる方達にとつ  
ても、ホッとしたりひとときを過ごすこ  
とができる、居心地のいい場所である  
といい。  
(平井)

## 表紙の👁️

守門公民館開館式には多くの  
方々が参列しました。横山館長手  
製の看板もできあがり、その意気  
込みが伝わってきます。

編集兼発行人 魚沼市中央公民館長 菲澤 文隆